

南山大学広報誌

NANZAN BULLETIN

vol.234

2025.12.20

特集

第76回 大学祭 芙

しおり



NANZAN
UNIVERSITY

NANZAN FESTIVAL
2025

第76回 大学祭

しおり

栄

2025.11.1(土)→3(月・祝)

2025年11月1~3日の3日間、第76回大学祭を開催しました。今年のテーマは「栄(しおり)」。大学祭に携わる全ての人がこれから的人生を振り返ったときに、今年度の大学祭が思い出を彩る1つの栄となるものにしたい、というメッセージが込められています。

メインストリートには27店舗の模擬店企画が並び、教室棟ではバンド演奏や作品の展示・販売等を行いました。11月2日には南山大学同窓会主催の「ホームカミングデー」も開催されました。来場者数は3日間で14,000名以上にのぼり、連日大盛況の大学祭になりました。



多くのイベントや出店で卒業生の皆さんをお迎えしました。

ジブリパークの 「グーチョキパン屋」が 出店!



南山大学はジブリパークのオフィシャルパートナーです。

11月3日、ジブリパークの魔女の谷にある「グーチョキパン屋」が大学祭で出店しました。ジブリパーク以外の場所での出店は今回が初めてのことです。ブース前には開店前から多くの人が並び、ジブリパークの人気の高さがうかがえました。当日は本学の学生もボランティアとしてブースに参加しました。

第76回大学祭を終えて

大学祭運営委員会委員長
松波有哉さん(法學部法律学科3年)

第76回大学祭運営委員長を務めました松波有哉です。今年度の大学祭は好天にも恵まれ、多くの方にご来場していただきました。素晴らしい企画が並んだキャンパス内は、ご来場のお客様、出店してくださった団体の皆様の笑顔で満ち溢れていきました。

また、この大学祭開催にあたり、ご尽力を賜りました全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。地域の皆様や協賛企業の方々、同窓会の皆様など数多くの人たちの努力と協力によって、この催しはこうして大きな成功を収めることができました。改めて、感謝申し上げます。

そして、私は委員長として迎える今年の活動で、委員会のメンバーには本当にお世話になりました。初めてのことばかりの中でテキパキと仕事をこなしてくれる後輩、普段はふざけていても、いざという時は真剣な顔で活動に取り組む同期、そして常にそっと見守ってくれたOBOGの先輩方、皆さんのおかげで未熟な部分も多い私でしたが、委員長としての仕事を最後まで全うすることができました。この仲間とともに大学祭を築き上げることができたことは、私の人生の栄となりました。

最後にはなりますが、来年度は、頼もしい後輩たちがより素敵な大学祭を作っていくことだと思います。是非、次回の大学祭にも足を運んでいただけたら幸いです。



大学祭運営委員会メンバー

今年と昨年の大学祭運営委員会委員長に、運営委員会で取り組んでいる仕事内容や、本学の大学祭ならではの魅力などをインタビューしました!

インタビュー記事はこちらから
https://www.nanzan-u.ac.jp/yamazato60/event2025/event2025_05.html



Special Events

2025.8.29

総合政策学部秋学期入学者卒業式

8月29日、本部棟第3会議室にて総合政策学部秋学期入学者卒業式を行いました。式典ではキサラ学長から卒業生一人ひとりに学位記が授与され、外国人留学生4名が卒業しました。



2025.9.12

2025年度秋学期入学式

9月12日、フラッテンホールにて2025年度秋学期入学式を行いました。学部生、大学院生、外国人留学生別科生合わせて176名が入学し、華やかな式典となりました。



2025.9.12

2025年度9月卒業式

9月12日、フラッテンホールにて2025年度9月卒業式を行いました。指導司祭による祈りと聖書朗読の後、各学部および研究科代表者に学位記が授与され、96名が卒業しました。



2025.9.25

経済学部あいち銀行寄付講座「特別テーマ講義(政策)A」を開講

経済学部では、2025年1月に本学とあいち銀行の間で締結した「連携・協力に関する協定書」に基づく取組みの一環として、第3クオーターにあいち銀行寄付講座「特別テーマ講義(政策)A」を開講しました。

多様化する地域金融機関の役割について、実務経験の豊富な行員がオムニバス方式で全14回の講義を行いました。9月25日の第2回講義では、本学卒業生でもあるあいち銀行鈴木武裕代表取締役頭取にご登壇いただきました。



2025.10.4

教育研究懇談会(旧:保護者の集い)

10月4日、南山大学と南山大学後援会の共催で、第53回南山大学教育研究懇談会(旧:保護者の集い)を開催しました。今年度も、多くの皆様をキャンパスにお迎えして、現地参加とオンライン参加(全体集会のみ)のハイブリッドで実施しました。

全体集会では、キサラ学長と磯崎後援会理事長のご挨拶の後、本学の学生生活、キャリア・就職支援、教育、国際教育について本学教員より説明しました。その後の後援会企画では、「[YAMAZATO60+]世界の声で南山を語る」と題し、イタリア、オーストラリア、フランス出身の教員と共に、世界の視点から本学を語り合う座談会を行いました。



▲全体集会



▲学部・学科懇談会会場

2025.9.26

南山大学附属小学校1年生校外学習

9月26日、南山大学附属小学校1年生の校外学習が南山大学で行われました。南山大学での様々な体験を通して、校訓についての理解を深めることなどを目的として実施されました。

小学生たちはオリエンテーリングでチェックポイントを回り、普段入ることのない大学での体験活動を楽しんでいました。また、留学生に英語で質問をしたり、大学生にインタビューをしたりして、グリーンエリアやメインストリートを中心に、にぎやかな声が聞こえてきました。



Special Events

2025.10.26

受験生と保護者のための入試説明会

10月26日、2026年度一般選抜の受験を検討している方を対象とした説明会「受験生と保護者のための入試説明会」を実施しました。

全体向けに大学概要説明や入試説明、個別相談、キャンパスツアーを行いました。また、受験生向けには河合塾講師による入試対策講座や学部学科説明、保護者向けには受験生と関わる親の心構え講座等を実施しました。

大学開催型とオンライン開催型で合わせて1,224名の方にご参加いただきました。

今日は、イエスとユダの関係を再解釈した太宰治の文学作品「駆込み訴え」を題材に迫真的演技が繰り広げられ、学生たちの情熱と努力が詰まった舞台は盛況のうちに幕を閉じました。



2025.11.1

受難劇@南山祭

11月1日、ロゴスセンターで「受難劇@南山祭」の公演を行いました。野外宗教劇「受難」は南山大学を代表する伝統行事で、イエス・キリストの受難を大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」の学生が演じています。

コロナ禍を経て2022年、2023年はバッヘ・スクエアで受難劇を開催ましたが、部員減少のため2024年は開催を見送ることになりました。学生たちの「伝統を絶やさたくない」という思いから、今年は少人数ながらも室内での上演を実現しました。

今日は、イエスとユダの関係を再解釈した太宰治の文学作品「駆込み訴え」を題材に迫真的演技が繰り広げられ、学生たちの情熱と努力が詰まった舞台は盛況のうちに幕を閉じました。



2025.11.1-11.4

学生による研究報告や質疑応答も

-韓南大学校法学部(韓国)との学術交流会

11月1日～4日、第21回目となる南山大学法学部・法科学院・法学研究科と韓国・大田市にある韓南大学校法学部による学術交流会のため、教員5名、学生7名が渡韓しました。今年の学術セミナーのテーマ「デジタル時代の公務-日韓の法比較」では本学専任講師宮尾亮甫先生の報告と韓南大学校教授車聖敏先生との討論が行われました。その後、韓南生の2グループがそれぞれ、軍刑法とディープフェイクという現代的なテーマについて法的な観点から研究報告をし、それに対して南山生が質疑応答を行いました。懇親会や自由時間では学生たちはうちとけた様子で交流し互いに親交を深めました。



2025.11.2

総合政策学部25周年記念事業

11月2日、Q棟にて、総合政策学部25周年記念事業「総合政策学部の過去・現在から未来につなぐ交流会」を開催しました。当日は、ポスターによるゼミ活動の報告、高校生作文コンクールの授賞式、キャンパスツアー、衣料回収の取り組みを行いました。また、卒業生・現役生・教職員が参加したワークショップでは、学部の「これまで」と「これから」を付箋に書き出し、意見交換をしながら巨大な年表にまとめました。

学部に関わる幅広い世代から、100名を超える皆さんにご参加いただきました。



News

理工学部の学生がラクロス20歳以下日本代表に選出

ラクロス男子20歳以下日本代表に、理工学部機械システム工学科3年の小池貴太さんが選出され、8月に韓国・済州島で開催された国際大会「WORLD LACROSSE 男子20歳以下ラクロス選手権大会」に出場しました。

小池さんはアタック兼ミッドフィルダーとして、攻撃の際に中心となって点を取るポジションを担い、大会では複数の試合で得点を挙げてチームの好成績に貢献しました。



Photo by JLA

駐日ドミニカ共和国大使が学長を表敬訪問

9月2日、駐日ドミニカ共和国大使のEdward Aníbal PÉREZ Reyes氏が来学され、キサラ学長を表敬訪問されました。今後の日本とドミニカ共和国の友好関係について、高等教育レベルにおける交流の深化などの観点から意見交換が行われました。



▲左:キサラ学長
右:Edward Aníbal PÉREZ Reyes氏

経営学部の余合淳准教授が2024年度日本経営学会賞(著書部門)研究奨励賞を受賞

経営学部の余合淳准教授の共著書『人事管理のリサーチ・プラクティス・ギャップ—日本における関心の分化と架橋』(有斐閣)が、2024年度日本経営学会賞(著書部門)研究奨励賞を受賞しました。



1926年に創設された日本経営学会は、日本における社会科学系で最大規模の学会のひとつです。同学会が授与する日本経営学会賞は、経営学研究の発展と向上に資する優れた著書および論文に対して贈られるものです。

本学卒業生が外務大臣表彰を受賞

本学外国語学部英米学科卒業の森美子氏が、令和7年度外務大臣表彰を受賞されました。

外務大臣表彰は、日本と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をした個人・団体に対し、その功績を称えて授与されるものです。

森氏は本学卒業後、米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校にて博士号を取得し、その後約30年にわたりジョージタウン大学で教鞭を執られ、米国における日本語教育の推進および研究の発展に大きく寄与されました。また、本学英米学科とのCOIL(Collaborative Online International Learning)教育にもご尽力いただきました。



総合政策学部の学生が「2025年夏STAPS 最終ピッチ大会」でSTAPS優秀賞、LEAPDAY賞をダブル受賞

9月21日、総合政策学部2年の小代笑菜さんが「2025年夏STAPS 最終ピッチ大会」で、STAPS優秀賞、LEAPDAY賞を受賞しました。

愛知県主催の「STAPS(STATION Ai Program for Students)」は、STATION Aiが運営する学生起業家育成プログラムです。

小代さんは、先天性の障がいを持つご自身の「自力で自由に移動したい」という思いから、障がい者や高齢者のための後付け式アッチャメント「キャリーケースアシスター」を提案し、起業に向けて商品開発中です。



▲授賞式の様子(右が小代さん)

国際教養学部の学生が「2025 Miss SAKE 愛知」でグランプリを受賞

国際教養学部4年の齋藤希さんが、「2025 Miss SAKE 愛知大会」でグランプリを受賞し、6月13日に開催された「2025 Miss SAKE Japan 最終選考」ではベスト8に入賞しました。

また、9月25日にはMiss SAKE 愛知事務局の方とともにキサラ学長を表敬訪問し、これまでの活動を報告、今後の抱負なども話しました。



佐藤有美長久手市長が学長を表敬訪問

9月26日、佐藤有美長久手市長が本学キサラ学長を表敬訪問されました。

佐藤市長は南山大学の卒業生でもいらっしゃいます。

当日は、南山大学ライネルス中央図書館や人類学博物館など学内の施設をご見学いただいた後、キサラ学長、奥田副学長と会談されました。



ハンス ユーゲン・マルクス師(元南山学園理事長、元南山大学長)が秋の叙勲受章

令和7年秋の叙勲において、ハンス ユーゲン・マルクス師が旭日中綬章を受章しました。

ハンス ユーゲン・マルクス師は1973年カトリック司祭叙階の後、1986年南山大学教授、1993年には同学長、2008年に南山学園理事長に就任。2013年に本学名誉教授の称号を授与されました。



ファッショングランド UNITED ARROWS green label relaxing 「2025 WINTER COLLECTION」の撮影が本学で行われました

本学G棟、体育館、図書館等で「UNITED ARROWS green label relaxing」のビジュアル撮影が行われました。



歴史あるキャンパスを背景に、素敵なカットが数多く撮影されました。

南山大学でユナイテッドアローズのビジュアル撮影が行われました。
https://www.nanzan-u.ac.jp/yamazato60/about/news_unitedarrows.html



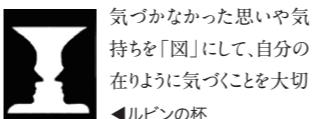
私の研究

中西 美和(なかにし みわ)
人文学部 心理人間学科 教授
専攻分野:臨床心理学
研究テーマ:ヒューマニスティック・グループアプローチの実践的研究
主な担当科目等:臨床心理学、人間関係プロセス論(カウンセリング・アプローチI・II)、人間関係トレーニング

他ならぬ私で在ること

私の研究では、ヒューマニスティック・グループアプローチ(ゲシュタルト療法やTグループ)の実践を通して、何が、どのように「他者との繋がりの中で他ならぬ私として生きてゆくこと」を支えるのかを考察しています。

ひとつの絵を見ているのに、あるときは杯が見え、またあるときは二人の顔が浮かび上がる——有名な錯視図「ルビンの杯」をご存じでしょうか。注意を向いたところが「図」となり意味をなし、それ以外は「地(背景)」となり、どこに注意を向けるかで見えてくるものが違ってきます。ゲシュタルト療法は、この「図」と「地」の関係に注目し、これまで「地」になつていて



▲ルビンの杯

さらに最近では、ヒューマニスティックな考え方をベースにして、依存を招かず自走する力を育む音声対話AIカウンセリングシステムの開発に、理系の研究者と共に取り組んでいます。



▲音声対話AIカウンセリングシステム開発のための基礎データ収集の様子



私のクラス

稲垣 一之(いながき かずゆき)
経済学部 経済学科 教授
専攻分野:国際金融論
研究テーマ:生産自動化資本が世界経済へ与える影響
主な担当科目等:国際金融論A、B

考えを論理的に説明する能力が求められます。これらに加えて、ディベート大会ではチームワーク力も必要になります。このような能力を養うためには、高いレベルの競争、つまり努力が不可欠である環境に身を置くことが効果的です。同じ実践でも、近場の買い物より遠方の旅行を目的としたほうが、車の運転の練習に身が入るようなものです。

このようなゼミ活動は、多くの学生にとって挑戦です。ただ、これまでのゼミ生が達成してきた実績は、現役の学生にとって大きな勇気につながります。今年もゼミ生は楽しみながら一生懸命に活動しています。



▲第23回全国学生対抗円ダービーで最優秀賞と優秀賞を同時受賞

挑戦と実績

私がゼミ活動で重視していることは、他大学の学生との競争の場に参加することです。2020年から全国規模の論文コンテストに参加して、最優秀賞など、ゼミ生は5年連続で全国トップの実績を達成しました。また、同志社大学や明治大学などの教員と一緒に大学対抗ディベート大会を開催し、ゼミ生は専門知識に基づいた真剣勝負を毎年経験していました。

大学で専門知識を学ぶことはとても重要ですが、その内容をより深く理解するためには、実践の場を経験することが大切であると私は考えています。例えば、車の免許を取得して、その後に実際に公道を走ることで、車の運転技術が高まるという感覚です。論文コンテストで賞を獲得するためには、専門知識に加えて、人を惹きつける新しいアイデア、説得的なデータの取得と開示、自分の

わずか3日間という短い期間でしたが、さまざまなバックグラウンドをもつ学生たちとともに活動したこと、多くの気づきや新たな繋がりを得ることができました。今後も、ASEACCUで出会った学生たちとの縁を大切にして、また、Z世代としての自覚と未来への責任を持ち、人生を歩んでいきたいです。



▲Warm Up Activityの様子(左から3番目が山本さん)

INTERNATIONAL FRIENDSHIP



ASEACCU(東南・東アジアカトリック大学連盟) 学生会議に参加して

ASEACCU(東南・東アジアカトリック大学連盟)には本学を含む約90校が加盟しており、毎年開催されるASEACCU総会に並行して学生会議が行われています。

31回目となる今年はアジア地域を中心に10の国と地域の大学から学生約90名が集まりました。

期間:2025年8月18日~8月21日

場所:Providence University(台湾・台中市)

テーマ: "Pilgrims of Hope: Spiritual Development and Action of Gen Z"

参加者:山本 高之さん

(人間文化研究科人類学専攻博士前期課程2年)

竹内 莉凜さん(外国语学部英米学科4年)



▲左から竹内さん、引率のMANGGA准教授、山本さん

山本高之さん感想

今回のASEACCUの主題は、「希望の巡礼者(Pilgrims of Hope)」という聖年のテーマを踏まえ、私たちZ世代を取り巻く環境や、Z世代の特徴について理解を深めるというものでした。同じZ世代として生きる他の学生たちとディスカッションする中で、宗教や信仰が私たちの人生における重要な羅針盤になることを強く実感し、カトリック大学で学問を修めることの意義を再確認することができました。

また、人生の意味や自分の感情について深く思考したり、それを他の学生にシェアしたりする機会も用意されていましたが、そこには、言語や国籍、エスニシティをこえて互いを尊重し、対話をする雰囲気がありました。そうした環境で過ごせたことは、私にとって非常に有意義な経験となりました。

竹内莉凜さん感想

今年のテーマである「Pilgrims of Hope: Spiritual Development and Action of Gen Z(希望の巡礼者:Z世代の精神的な成長と行動)」をもとに、多くの学びを得ることができました。Z世代として生きている私たち自身が、改めて自分たちの世代の特徴や課題を考え、世界各国の学生と議論し交流する時間は、とても意義深いものでした。SNSの普及により繋がりや情報が溢れる一方で、Z世代だからこそ「セルフケア」と「コミュニティの大切さ」を意識することが重要であると気づきました。また、カトリック信者の学生との対話やミサの時間を通して、自分と向き合い、周りの人を大切にし、互いに尊重し合うことの大切さを改めて学ぶことができました。学生生活の最後に、このように人生や社会のあり方について考え、さまざま

な国の仲間と出会い、分かち合う時間を持つたことに感謝しています。今回の学びを残りの学生生活、そして社会人としての歩みの中でも活かし、どのような場面においても人と誠実に向かい、共に成長していく存在でありたいです。



▲高美湿地でのフィールドワーク(前方左側が竹内さん)

Special Events Schedule

2026.3.20

2025年度 南山大学卒業式

開催日時：2026年3月20日(金) 第1部 午後1時より 第2部 午後3時15分より

内 訳：【第1部】外国語学部、法学部、理工学部、国際教養学部、国際地域文化研究科、法学研究科、理工学研究科、法務研究科

【第2部】人文学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、人間文化研究科、社会科学研究科

問合せ先：総務課 (Phone:052-832-3112)



▲昨年の卒業式の様子

Information

■ 2026年度学生納付金改定について

2026年度南山大学学生納付金について、2025年3月28日開催の学園理事会において以下のとおりとすることを決定しました。

◎学部学生(2020年度以前入学生)

理工学部を除く学部については、授業料を718,000円とともに、施設設備費を210,000円とする。

理工学部については、授業料を818,000円とともに、施設設備費を210,000円とする。

◎学部学生(2021～2025年度入学生)

理工学部を除く学部については、授業料を750,000円とともに、教育充実費を240,000円とする。

理工学部については、授業料を750,000円とともに、教育充実費を340,000円とする。

◎学部学生(2026年度以降入学生)

理工学部を除く学部については、授業料を800,000円とともに、教育充実費を240,000円とする。

理工学部については、授業料を800,000円とともに、教育充実費を340,000円とする。

◎大学院学生

理工学研究科および法務研究科を除く研究科については、授業料を574,000円とともに、施設設備費を105,000円とする。

理工学研究科については、授業料を654,000円とともに、施設設備費を105,000円とする。

法務研究科については、授業料を1,000,000円とともに、施設設備費を200,000円とする。

【2026年度学生納付金徴収(引落)日】

・春学期(第1・第2クオーター分) 2026年4月13日(月)

・秋学期(第3・第4クオーター分) 2026年9月28日(月)

各学期の公示、および学納金通知はがきにてご案内いたしますので、ご確認ください。

■ 寄附者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

南山大学同窓会 会長 松 岳 大 樹 様
匿名ご希望者 1団体様

「『ほまれはここに我が南山』学生応援募金」へのご協力に感謝いたします。

木 越 律 子 様 田中加奈子 様
村 木 伸 將 様 塩 田 洋 千 様
市 原 幸 造 様 荒 木 佳 資 様
武 市 直 子 様 匿名ご希望者 5名様

■ 新任用教員紹介

2025年11月1日付

●保健センター
助教 大 塚 瑛 絵

■ 退職

2025年10月8日付
●人文学部
准教授 ANTONY SUSAIRAJ

「南山大学創立75周年記念募金」へのご協力に感謝いたします。

天野祐子 様 奥田邦子 様 羽場典子 様
池上久子 様 村井雅彦 様 船田行子 様
竹内邦夫 様 山田啓子 様 加納友美 様
山田重人 様 伊藤千織 様 大坪和代 様
藤井英二 様 各務貞三 様 荒井志津子 様
長谷川周義 様 永井弘美 様 樋口慎二 様
前田泰二 様 斎藤立子 様 宮木博吉 様
伊東章晴 様 長縄昌代 様 中村満男 様
大村博之 様 有井達夫 様 水野典夫 様
竹尾重人 様 山本睦美 様 金子慶太郎 様

南山会計人会 様

高橋典靖 様 早川太 様
高橋澄 様 小田茂樹 様
山田敏夫 様 金森弘 様
窪田幸司 様

匿名ご希望者 19名様

■ 懐かしの学食「ささみフライ定食」 復刻プロジェクト始動!

学生食堂の懐かしのメニューを再現するため、キャンパス内外から情報を集める「あるむないキッチン」を始めました。1970年代後半から1990年代にかけて第2食堂(通称「2食」)で提供されていた人気メニュー「ささみフライ定食」を知る方々から、写真や思い出などの情報を収集中です。懐かしのメニュー復刻に向けて、ぜひご協力をお願いします!



あるむないキッチン

<https://www.nanzan-u.ac.jp/yamazato60/aruku/alumnikitchen/01.html>



本学では、学生の活動などをWebページ「NANZAN Today」、Instagram、Facebookでも紹介しています。ぜひご覧ください。

NANZAN Today



Instagram



Facebook



南山大学

発行 広報・募金課／〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: pr-gaku@nanzan-u.ac.jp [https://www.nanzan-u.ac.jp/](http://www.nanzan-u.ac.jp/)